

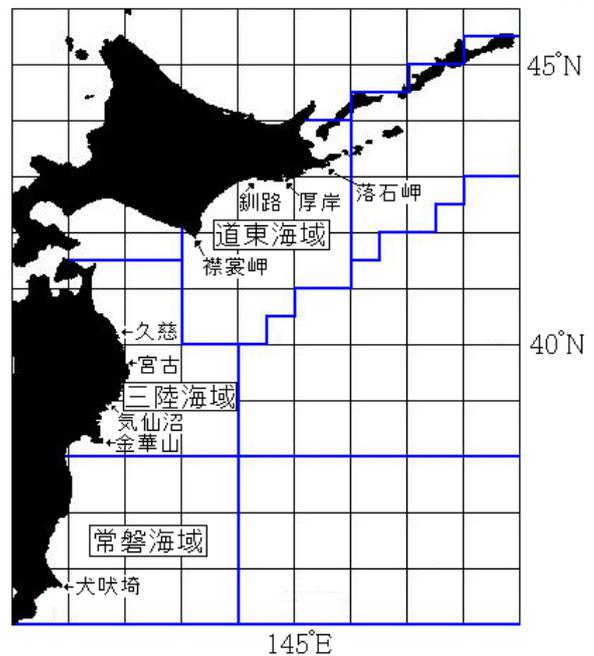
2024年度 第2回サンマ中短期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し一般社団法人漁業情報サービスセンターがとりまとめた結果 －

今後の見通し(2024年9月下旬～11月上旬)のポイント

来遊量

- ・道東海域では、断続的な来遊があるが、漁場形成は10月上旬からとなる。
- ・三陸海域では、10月下旬になると断続的な来遊があるが、来遊量は極めて少ない。



海域の名称

問い合わせ先

一般社団法人漁業情報サービスセンター 水産情報部
担当：渡邊、源
電話：03-5547-6889、ファックス：03-5547-6881
当資料のホームページ掲載先URL
<https://www.jafic.or.jp/information/category/gyokyo/>

2024年度 第2回サンマ中短期漁況予報

1. 今後の見通し

予測期間：2024年9月下旬から11月上旬までの旬別

対象海域：道東海域、三陸海域

対象漁業：さんま棒受網漁業

対象魚群：南下回遊群

1) 道東海域

(1) 来遊量

9月上旬は、前年よりも西側に漁場が形成されたものの、道東海域よりもかなり沖合の公海にしか魚群が分布していなかった。しかし、9月中旬に実施した調査船による調査で、少ないながらもサンマが確認できた（5. 付属情報参照）ことから、9月下旬は、道東海域では少ないながらも来遊の可能性がある。道東海域よりも東沖の公海における来遊量は、9月下旬は前年を上回るものの、低水準である。10月上旬になると、沖合から道東海域に魚群が来遊するが、来遊量は前年並みで少なく、来遊は断続的である。10月中旬～11月上旬の来遊量は、低位水準である。多くの魚群は、道東海域よりも東～南側を南下し、道東近海に来遊する群は極めて少ない。

(2) 漁場

9月下旬は、道東海域には漁場は形成されず、主漁場は道東海域より東側の公海となる。道東海域では、10月上旬～中旬に、落石沖の沿岸から離れた沖合を中心に散発的に漁場が形成される。また10月下旬～11月上旬は、落石沖と襟裳岬沖に漁場が形成される。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

9月下旬～10月中旬は、来遊は無い。10月下旬～11月上旬は、断続的な来遊があるが、来遊量は少ない。

(2) 漁場

10月下旬～11月上旬は、三陸南部沖合に散発的に漁場が形成される。

2. 予測の概要

海 域		9月下旬	10月上旬	10月中旬	10月下旬	11月上旬
道東海域	来遊量	— →	— →	— →	— →	— →
	動向	断続的	断続的	低位水準	低位水準	低位水準
	漁 場		落石沖	落石沖	落石沖 襟裳岬沖	落石沖 襟裳岬沖
三陸海域	来遊量				— →	— →
	動向				断続的	断続的
	漁 場				三陸南部沖	三陸南部沖

3. 漁況の経過概要（9月上旬）

1) 道東海域

(1) 来遊量

今年は、前年同様、道東海域に漁場は形成されず、道東海域における来遊量は極めて少ない。

主漁場は、道東海域より東側の公海であった。1日1隻あたり最高で68トン程度漁獲した船もあったが、平均8.6トンであった。CPUE（1網あたりの漁獲量）は、8月下旬より増加して前年よりも多かった。これらのことから、魚群は道東海域よりもさらに沖合に分布しており、分布量は少なかったものの前年を上回った。

(2) 漁場

道東海域に漁場は形成されなかった。主漁場は、道東海域東側の公海、落石東360～380海里と、落石東420海里～東北東520海里であった。

引き続き漁場は遠く、小型船の多くは出漁できなかった。

落石東360～380海里の漁場水温16～19℃では、大型船数隻～12隻程度操業し、大型船で最高3トン、平均1.3トン漁獲した。

落石東420海里～東北東520海里の漁場水温16～19℃では、大型船数隻～35隻程度と小型船が操業し、大型船で最高68トン、平均9.5トン漁獲した。

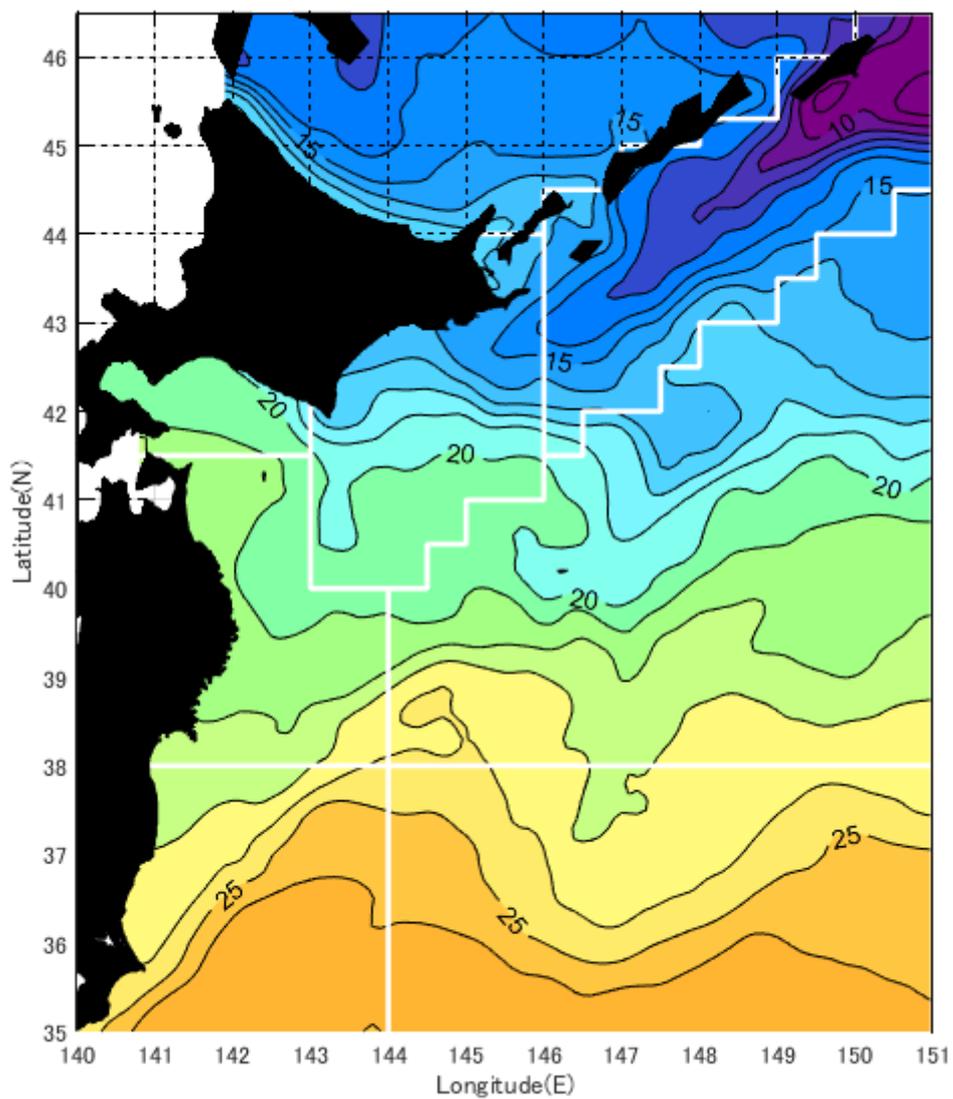
(3) 魚体

道東海域よりも東側の、落石東360～380海里と落石東420海里～東北東520海里では、体長27～29cmが主体、体重は80～110g台が主体であった。

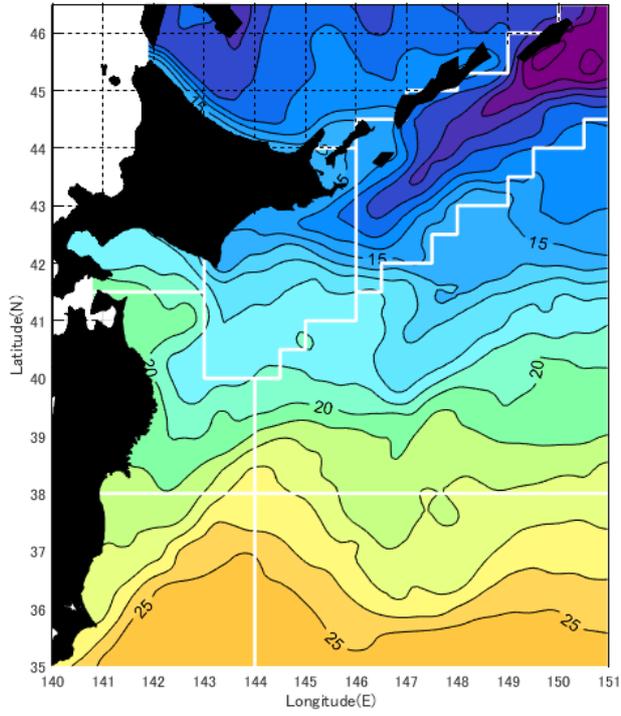
※常磐海域の予報については、第3回（9月30日発表予定）から行う。

4. 予測水温分布図

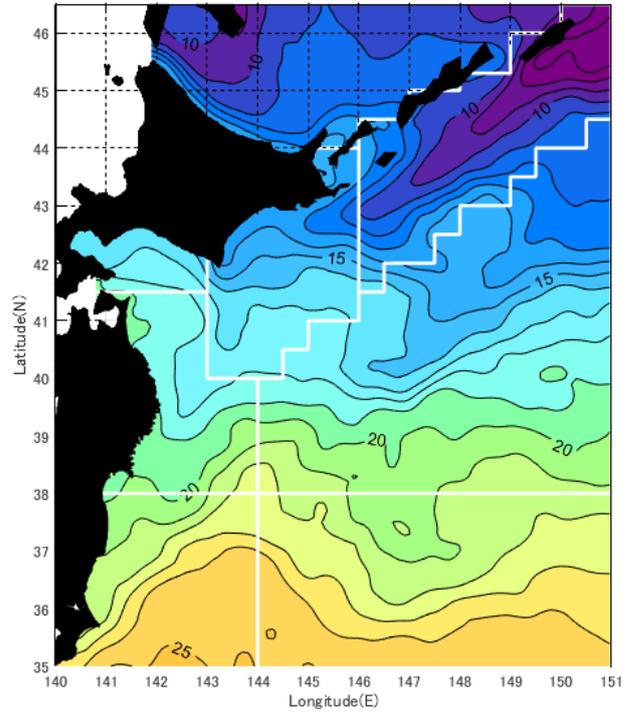
9月下旬予測表面水温分布図



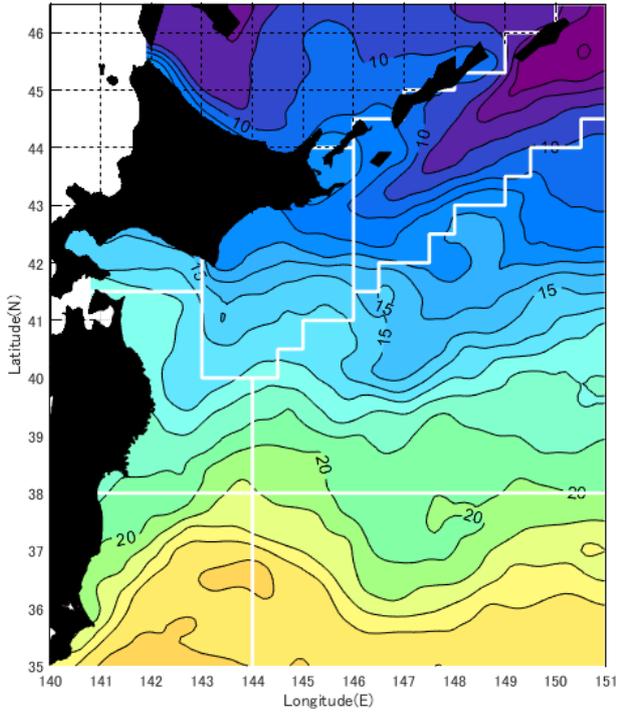
10月上旬予測表面水温分布图



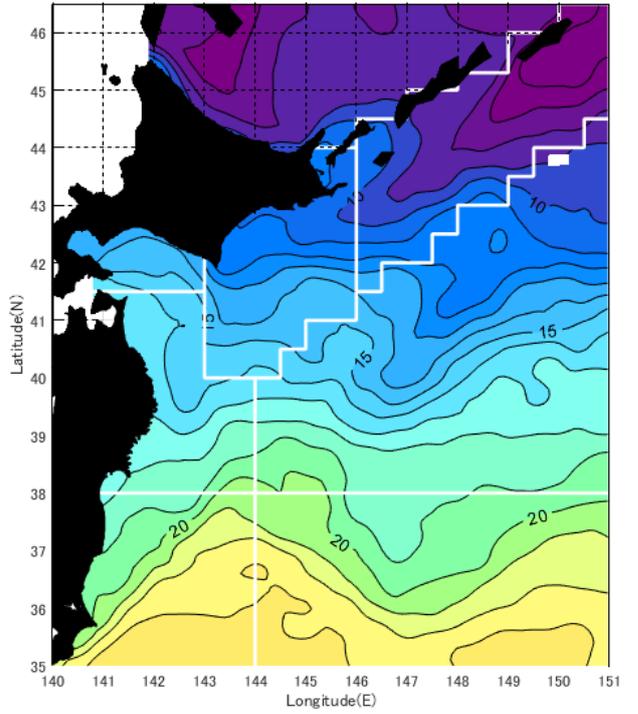
10月中旬予測表面水温分布图



10月下旬予測表面水温分布图

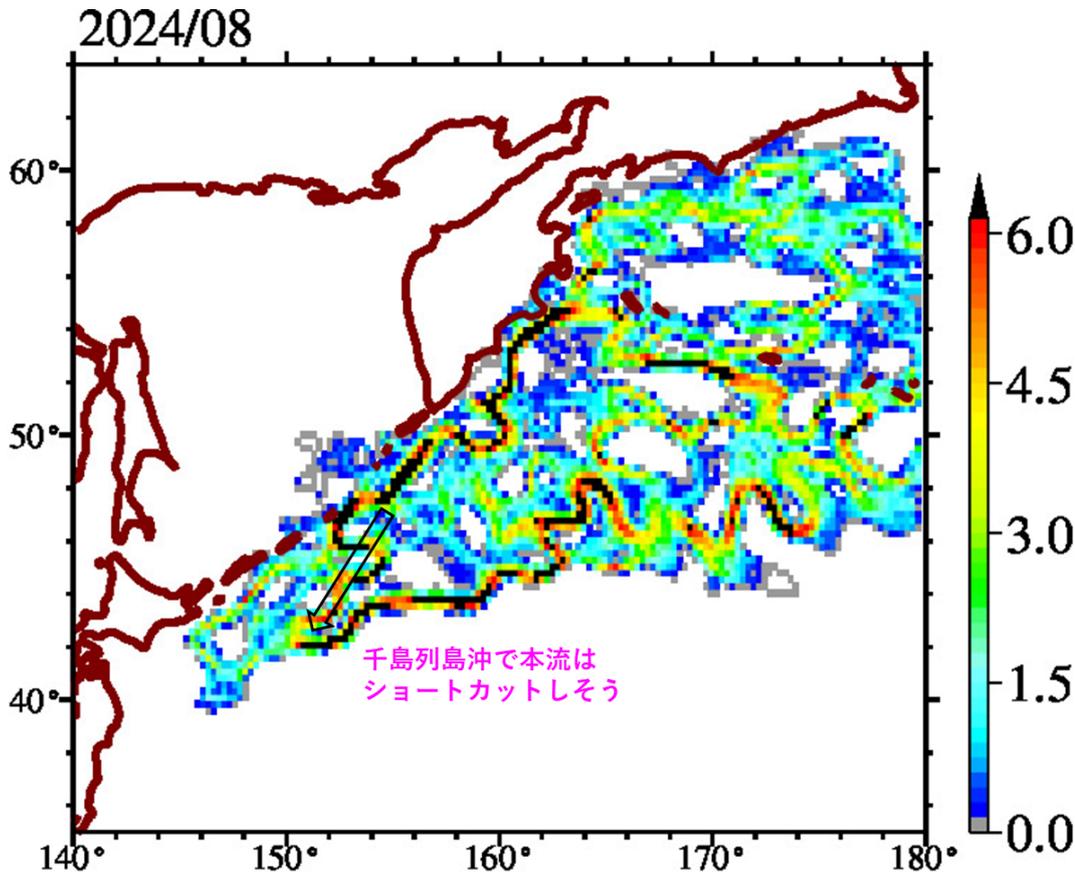


11月上旬予測表面水温分布图



5. 付属情報

1) 人工衛星による海面高度データに基づいた2024年8月の西部亜寒帯循環の流路



西部亜寒帯循環は北西太平洋亜寒帯全域の海流の循環であるが、親潮はその南西端にあたる。人工衛星の海面高度計によって得られたデータから、この海流の強さと流路を推定することができる。図の黒い線は流れの強い本流を表している。2024年8月において、親潮は道東付近まで流れている模様であるが、親潮本流は2017-2019年夏秋に見られたような千島列島沖でのショートカット流路に遷移しそうな状況である。この状況が続けば、10月以降、道東～三陸沿岸に沿ってサンマが回遊することが難しい状況になる可能性もある。分析方法は、Kuroda et al. (2021) 参照。

2) 調査船によるサンマ情報

国立研究開発法人 水産研究・教育機構が水産庁の委託を受け、北海道教育庁渡島教育局の実習船（北鳳丸）によって実施している表層トロール網を用いた調査において、2024年9月12日に道東海域の落石岬南沖でサンマを漁獲および目視された。

- ・調査地点T-01 北緯42度43分、東経145度28分 表面水温15.8℃ サンマ20尾2.55kg漁獲。体長29-32cm。
- ・調査地点T-02 北緯42度46分、東経145度55分 表面水温16.6℃ サンマ漁獲なし。調査中サンマ目視。

参 画 機 関

<p>地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場</p> <p>岩手県水産技術センター</p> <p>宮城県水産技術総合センター</p> <p>福島県水産海洋研究センター</p>	<p>茨城県水産試験場</p> <p>千葉県水産総合研究センター</p> <p>国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所</p> <p>(取りまとめ機関) 一般社団法人 漁業情報サービスセンター</p>
--	---